

田鶴浜小学校5年生 ふるさと歴史教室

・・・・・・・・・・・・・・・・浜の山車と木遣り音頭・・・・・・・・・・・・・・・・

○ 田鶴浜のお祭り（住吉大祭）の始まりとお殿様

今から443年前の天正8年（1580年）、お侍さんが自分の領土を大きくするために戦っていました。そのお侍こそ田鶴浜をつくった人です。名前を「長連龍」といいます。生まれは穴水で、お坊さんでした。

天正8年（1580年）たくさんの戦いに勝って田鶴浜に館（住む所）を建てました。田鶴浜に館（住む所）を建てるときに、村人たちが太鼓や鐘を鳴らし、山車を作ってひっぱり、お祝いしたのが田鶴浜のお祭り（住吉大祭）の始まりといわれています。

今こそ田鶴浜の住吉神社の春祭りとして行われていますが、元々はそのような歴史があったわけです。住吉神社にとって1年で一番大きなお祭りですから田鶴浜地区の皆さんの健康や商売繁盛、350年の歴史と伝統のある田鶴浜建具の発展を祈って行われてきました。

○ お祭りの様子

お祭りは毎年4月に行われます。今年は、4月21日の金曜日と22日の土曜日でした。金曜日の夕方6時頃、8つの町内の決められた「宿」から皆さんのお父さんやお爺さんが、長い竹の棒にくくりつけた「高張提灯」

2本を先頭に鐘と太鼓を叩きながら、住吉神社に集まります。そしてお祈りとお祓いを受けて、「ご幣」という「お守り」を頂きそれぞれの町内へ戻ります。町内の「宿」に帰ってから飾ってある町内の守り神である「人形」にお宮さんから頂いた「ご幣」と「お米」、「お酒」をお供えし、町内の皆さんの健康や商売繁盛などをお祈りします。

翌日の土曜日は、朝から住吉神社の前に6台の山車が並び、決められた順路に従い、ひっばります。このとき、エーイ、トオーコー、ナー、ヨイ、ヨイ、ヨイ、ヨイと掛け声をかけてひっばります。道路の角を曲がる時、方向転換をする時に歌われるのが「木遣り音頭」です。お祭りですから皆さんお酒を飲んでいきます。全員の心をひとつにしないと大事故になります。代表者である支部長さんの掛け声で「木遣り音頭」を歌うのです。歌を歌う人と「ハヤシ」をする人に分かれて歌います。道路の角々で歌う歌詞が決まっています。住吉神社の前では住吉神社の歌詞を、東嶺寺の前では東嶺寺の歌詞を歌わなければなりません。そして、それは「ゆっくり、ゆっくり」と歌わなければなりません。あわてると大事故になります。

○ 太鼓と「木遣り音頭」の練習

それでは、太鼓と「木遣り音頭」の練習をしてみましょう。